

平成 29 年 2 月 17 日

看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定ワーキンググループ  
座 長 内布 敦子 様

一般社団法人 日本地域看護学会  
理事長 宮崎 美砂子

## 看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定に関する日本地域看護学会からの提案

近年の急速な医療提供体制の変化に対応し、地域包括ケアシステムの構築と推進を担う看護系人材養成は看護系大学にとって喫緊の課題です。一方、看護系大学は現在、「学士課程における看護実践能力と卒業時到達目標」（以下、到達目標 2011）を参照し、教育課程を編成し質の高い看護系人材養成を目指しています。

これらの背景を踏まえ、一般社団法人日本地域看護学会では、平成 27 年度より「看護学基礎教育で修得すべき地域看護の能力（コンピテンシー）」を明らかにすることを目的として、調査ならびに検討を重ね、このたび、検討結果がまとまりました。つきましては、現在、検討中の看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定に活かして頂きたいと考え、ここに提案書を提出します。

なお、本提案は、到達目標 2011 が全国的に看護系大学の教育課程編成において参照基準となっている現状を勘案し、到達目標 2011 の 20 の能力に対応する形で、とくに地域看護の立場から文言を追加・変更が望ましい点を整理したことを申し添えます。

### 1. 看護学教育モデル・コア・カリキュラムは学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時の到達目標（2011）の看護実践能力を基盤とする

平成 28 年度より大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会において検討されている看護学教育モデル・コア・カリキュラムは、広く看護系大学に定着している状況を考慮し到達目標 2011 で示す 20 の実践能力を基盤とすることが望ましいと考え提案します。

### 2. 到達目標 2011 の 20 の実践能力のうち以下 6 つの能力について、下線部のとおり新たに文言を追加もしくは変更するとともに、関連する卒業時到達目標（コンピテンシー）を追加する

提案の要点は、①能力の表現に、より「生活」や「地域ケア」を意識したこと、②地域ケアとして「システム」を明示したこと、③ケアの「継続性」を保つようにしたこと、更に、④看護職としての「推進」力を明示したことです。到達目標の詳細は別添資料をご参照ください。

II 群 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力

- 7) 多様な場における個人と家族の生活を査定（Assessment）する能力、
- 8) 生活の場としての地域の特性と健康課題を査定（Assessment）する能力

III 群 特定の健康課題に対応する実践能力

- 10) 健康の保持増進と疾病を予防する能力
- に(4)(5)(6)の到達目標を追加

IV 群 ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力

- 15) 地域ケアシステムの構築・推進と看護機能の充実を図る能力
- 16) 安全なケア環境の提供と健康危機管理にかかわる能力
- 17) 継続したケア提供と保健医療福祉における協働と連携を推進する能力